

大和合金

相次ぎ機械加工設備増強

納期短縮・顧客歩留まり向上

銅合金の鍛造品や鋳造品などを手掛ける大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)は機械加工設備を相次ぎ増強する。増強により納期や歩留まりなどの面で顧客メ

リットを創出し、エネルギーや航空機などに投資金額は合計で1億数千万円。

9月にはリング・円盤加工に用いるターニングを更新。さらに2021年内をめぐって、現有設備の老朽化が進む中、操業を安定化させるため更新す

る。新鋭機導入により能力が高まることから納期が短縮できるほか、加工精度も大幅向上する。新設備でエネルギー関連分野や次世代自動車関連分野での底堅い需要に対応し、

コンスタントな受注獲得を目指す。またNC旋盤はヤマザキマザック製の長尺用タイプ。これまでの2倍となる長さ約2尺の素材を加工できることが特長となっている。

長尺素材の供給によって、航空関連分野の顧客の歩留まりを向上できる。航空関連分野は現在欧米や中国での現地需要が徐々に改善しており、中長期では世界で段階的な回復も見込まれるため、新

設備を武器に需要を取り込む考えだ。新たなターニング、NC旋盤はともに三芳工場(埼玉県三芳町)に導入する計画。萩野社長は「切削をはじめ

とする機械加工の充実化によって、客先で使われない表面部分を自社内で多く再利用できるようにするため、環境負荷低減にもつながる」と話している。

大和合金 三芳工場に倉庫増設 レイアウト最適化、生産性向上

大和合金は三芳工場(埼玉県三芳町)内に倉庫を増設した。製造・加工拠点全体として生産性を高めるレイアウト最適化を進めており、その一環としての取り組み。在庫管理の効率化も進められる。同社ではグループ全

体として競争力強化に向けた設備増強を推進。設備増設のスペース確保のためレイアウトを変更する中で、半製品の流れを整流化できる配置を目指すなどして生産性向上を図っている。

配置最適化に合わせて、これまで倉庫として使っていた建屋を機械加工に利用するたため、新たに倉庫を設けた。

新倉庫はテント構造で、面積は312平方尺。内部には銅合金素材の保管に適したラックを導入するなどしており、これまで以上に在庫管理が効率化されている。